

# 「肺病変を有する多中心性キャッスルマン病 (Multicentric Castleman Disease ; MCD) の臨床・画像・病理学的検討 」についてのご説明

## 1. はじめに

現在、私たちは、肺病変を有する多中心性キャッスルマン病 (MCD) の臨床・画像・病理学的検討のための臨床研究について多施設で共同して取り組んでいます。

本研究は“自主臨床研究”と呼ばれるもので、実際の診療に携わる医師が、医学的必要性・重要性を検討し立案・計画して行うものです。本研究はすでに行われた治療や対応を過去の病歴をもとに振り返って検討するものであり、患者さんに対して治療の介入を行うものではありません。(後方視的研究)

## 2. 病気について

多中心性キャッスルマン病とは、キャッスルマン病というリンパ節をはじめとするリンパ装置の異常により生じる病気のうち、全身性の変化がみられる疾患です。本症の原因は不明ですが、インターロイキン6 (IL-6) という物質の増加が関与していることが分かっています。過剰に産生された IL-6 は、だるさや発熱、食欲不振、発疹などの症状や、CRP 上昇、貧血などの臨床検査値異常が引き起こされます。本症は悪性の疾患ではありませんが、長期にわたると肺や腎臓の障害を引き起こすことがあります。

本症の問題点は原因が不明で、他に鑑別するべき病気も多く診断するのが難しい病気です。どのような特徴があればこの病気と診断して良いのか、他の紛らわしい病気とどのように区別するのか、どのような時期にどのような治療法が効果的なのかは、まだまだ検討する余地があります。

## 3. 目的

今回の研究で、この病気について詳しく知ることにより、より確実な診断と、より効果的な治療、対応法を検討することが目的です。

## 4. 方法

対象：多中心性キャッスルマン病と診断がついた方で病気による障害が肺でみられる方

検査方法：これまでに各病院で行なった血液検査や、CT 検査、あるいは病理検査を確認しますので、特に新たに検査することはありません。

本研究には個人情報をご特定されるような内容を含まないように配慮して行わ

れ、また、学会発表や論文などのデータの公表にあたっては個人情報が公開されることはありません。

5. 費用負担 : ありません。

#### 6. 登録の除外の希望

この内容をお読みいただいた本症の患者さんで本研究への登録を取りやめてほしいとご希望の方は下記までご連絡ください。その場合も、今後の治療上の不利益を被るようなことはありませんのでご安心ください。

\*\*\*\*\*

日本赤十字社医療センター 呼吸器内科  
生島 壮一郎

〒150 - 8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22

TEL : 03-3400-1311

FAX : 03-3409-1604

[ikushima\\_soichiro@med.jrc.or.jp](mailto:ikushima_soichiro@med.jrc.or.jp)

\*\*\*\*\*